

令和7年度 学校評価報告書  
小樽市立銭函中学校  
校長 青柳 信正

【評価】 数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価することを基本とする。

A:100%以上 / B:80%以上100%未満 / C:80%未満

※ 評価する際には、学校関係者と密接な連携をとり、単に数値の達成率を見るだけでなく、目標達成に向けたプロセスや、児童生徒の成長の度合い、具体的な取組の内容などを総合的に評価すること。

1 本年度の重点目標

【令和7年度の重点教育目標】 主体的な意思決定と適切な行動選択を促す教育活動の推進  
生徒が重点教育目標に示した「主体的な意思決定と適切な行動選択」を行うために必要な資質・能力等は以下の通りである。このため、教育活動全体を通じて、機能としてのこれら3つの資質能力等を身に付けさせ、相互に補完させながら、教育活動の成果に結び付けていきたい。  
① 自分で決めて実行する能力 ② 自分は価値のある存在であることへの実感 ③ 相互に人間として尊重し合う態度

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査の国語・数学の平均正答率について、全国平均の-4ポイントの正答率を上回る。	A	●取組状況 「小樽授業づくり5つのSTEP !!」に基づき、全教職員で授業改善を推進した。小中一貫の取組において、8月には4校で調査結果の共通の分析を行い、課題を把握した。10月には主体的な学びに焦点を当てた公開研究授業(2年国語)を行った。 ■達成状況 国語・数学ともに、「全国平均の-4ポイントの正答率」を上回った。	◎
	特別支援教育の充実	特別支援COを中心に、学期に1回校内支援委員会を開催し、困り感のある生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行う。	A	●取組状況 通常の学級において特別な支援を要する生徒について、学期に1回以上情報共有した。該当の生徒については、個別の指導計画を作成し、効果的な支援になるよう努めた。また、必要に応じて、スクールカウンセラーと連携して支援を行った。 ■達成状況 各学期1回以上の校内支援委員会を開催し、適切な支援の充実に努めた。	◎
	国際理解教育の充実	授業や放課後学習においてALTの効果的な活用を通して、英語力の向上を目指す。また英語検定受験者25人以上を目指す。	C	●取組状況 英語科教員とALTが、授業前後に十分な打ち合わせを行った。また、小学校の終日勤務日を設定し、ALTの効果的な活用に努めた。英検については、計3回実施し、校区内小学校3校にも参加者を呼びかけるとともに、PTAの活動の一環としても位置づけた。 ■達成状況 英検受験者は計18名となり、(6名・8名・4名)目標は達成できなかった。	◎
	理数教育の充実	全国学力・学習状況調査の質問調査等において、「数学の勉強は好きだ」の問いに対する肯定的回答の割合を60%以上にする。(R6:55.4%)	C	●取組状況 数学の授業で、ICTを活用した振り返りを取り入れながら学びを次の授業につなげるなど、主体的な学びの視点による授業改善を推進し、学習意欲の向上に努めた。 ■達成状況 全国学調および後期生徒アンケートにおいて、学校全体で46.2%(1年生は36.2%、2年生は41.1%、3年生は57.1%)となり、目標は達成できなかった。	◎
	情報教育の充実	全国学力・学習状況調査の質問調査等において、「授業でICT機器をどの程度使用しましたか」に対して「ほぼ毎日」の回答割合を60%以上にする。	A	●取組状況 授業研究主題を「教科の特性を生かしたICT活用」と設定し、各教科において効果的にクロームブックを活用した授業の交流を行った。活用頻度のみならず、デジタルとアナログをバランス良く取り入れた授業の在り方について、研修を重ねた。 ■達成状況 全国学調および市教委アンケート調査において、学校全体で65.3%(1年生は23.4%、2年生は62.5%、3年生は95.7%)となり、目標を達成した。	◎
	キャリア教育の充実	生徒アンケートの「将来の夢や目標がある」について、肯定的な回答を70%以上にする。(R6:69%)	A	●取組状況 総合的な学習の時間では「小樽市の魅力を生かした街づくりの提案」のテーマの下、それぞれの旅行的行事の取組などを通して、働く大人の多様な価値観に触れ、興味関心を広げ、自分の未来に期待感を抱かせる手立てを充実させた。 ■達成状況 後期生徒アンケートにおいて、学校全体で70.5%(1年生は70.2%、2年生は66.1%、3年生は74.3%)となり、目標を達成した。	◎
改善方策	○国際理解教育の充実 準会場実施とALTとの学習サポートを継続するとともに、学級・学年ごとの仲間と一緒に受験するなどムードづくりの工夫を行う。 ○理数教育の充実 「小樽授業づくり5つのSTEP !!」に基づいた授業改善を一層充実させる。特に、数学の学習内容と身の回りや社会とのつながりを重視した活動を展開するとともに、スモールステップでの「わかる！できた！」を積み重ねる授業デザインを行う。また、加配教員等を活用した複数教員による指導体制を整備する。				
学校関係者評価委員による意見	理数教育では「数学の壁」による理数離れを防ぐため、複数体制による指導の充実を図り、生徒のつまずきを取り除きながら「分かれば面白い」と感じる丁寧な指導が不可欠である。また、数字に抵抗なく関わられるような姿勢を育み、興味・関心を引き出し、基礎学力を確立させることが大切である。国際理解教育では、英語学習を授業内にとどめず、日常とのつながりを意識した活用機会の創出が求められている。実生活に即した学びを通じ、学んだ知識を主体的に生かせる環境づくりを推進してほしい。				

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者
			評価	取組状況・達成状況	
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	全国学力・学習状況調査の質問調査等において、「自分にはよいところがある」に対して肯定的回答の割合を80%以上にする。(R6:76%)	A	●取組状況 学校教育目標に基づいた丁寧な学級経営や言語環境の見直しなど、学校全体で受容的風土と成功体験を積み重ねる仕組みの充実に努めた。また、各学年の教師が交代しながら行う「ローテーション道徳」など、生徒のよさを多面的に捉える工夫に努めた。 ■達成状況 後期生徒アンケートにおいて、学校全体で85.5%(1年生は74.5%、2年生は89.3%、3年生は90.0%)となり、目標を達成した。	◎
	ふるさと教育の充実	全国学力・学習状況調査の質問調査等において、「地域や社会で起こっている問題に関心がある」に対して肯定的回答の割合を60%以上にする。	A	●取組状況 社会科の授業では、問題の背景にある歴史・経済的な要因に触れながら理解を深めた。また朝の会で「今日のニュース」を発表するなど、横断的な「時事問題」へのアプローチに努めた。 ■達成状況 後期生徒アンケートにおいて、学校全体で80.3%(1年生は70.2%、2年生は76.8%、3年生は90.0%)となり、目標を達成した。	◎
	読書活動の推進	学校図書館の充実を図り、週に1時間以上読書する生徒の割合を30%以上とする。(R6:25%)	C	●取組状況 朝の活動に「全校一斉朝読書」の時間を位置づけた。また、図書館司書と連携し、図書室のレイアウトを工夫し、市立図書館のスクールライブラリー便を活用するなど、環境整備に努めた。 ■達成状況 後期生徒アンケートにおいて、学校全体で10.8%(1年生は7.8%、2年生は12.5%、3年生は11.6%)となり、目標は達成できなかった。	◎
	体験活動の推進	全国学力・学習状況調査の質問調査等において、「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」に対して肯定的回答の割合を85%以上にする。	A	●取組状況 教室の中で完結せず、天気の良い日には屋外での授業を取り入れた。また、特別支援学級の教育課程においては、作業学習(畑)を位置づけ、ねらいの中に自然体験の機会を増やすことを踏まえながら充実させた。 ■達成状況 後期生徒アンケートにおいて、学校全体で90.2%(1年生は85.1%、2年生は87.5%、3年生は95.7%)となり、目標を達成した。	◎
	コミュニケーション能力の育成	全国学調の質問調査等において、「周りの人の考えを大切に、課題の解決に取り組んでいる」の肯定的回答の割合を60%以上にする。(R6:52%)	A	●取組状況 校内研修において、ICTを効果的に活用しながらコミュニケーションを一層充実させるための手立てや学び合いの場を位置づけた授業づくりについて交流し、研修を重ねた。 ■達成状況 全国学力・学習状況調査の質問調査において、肯定的回答が95.7%(全国比+3.8ポイント)となり、目標を達成した。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的回答の割合を100%にする。新規の不登校の発生を3名以内とする。	B	●取組状況 いじめ防止基本方針について、前期と後期の2回、生徒と共に確認し、本校の取組や相談窓口、警察と連携したいじめ問題への対応などを周知した。また、SOSの出し方に関する教育を行い、相談しやすい環境づくりに努めた。 ■達成状況 後期生徒アンケートにおいて、学校全体で94.8%(1年生は95.7%、2年生は96.4%、3年生は92.9%)となり、目標は達成できなかった。新規の不登校は0名(12月現在)だった。	◎
	改善方策	○読書活動の推進 平日の「テレビ3時間以上」「スマホ3時間以上」が、学校全体でいずれも30%を超えていることから、行動の優先順位を決めるなど適切な時間管理の力を保護者と共に育成する。 ○いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実 相談窓口の多角化や法に基づいた組織的な対応を徹底する。また、児童会生徒会オンラインミーティングの充実など、「いじめはいけない」という理屈を知っているだけでなく、すべての生徒に自分ごととして内面化させ、「理由があればいじめでもよい」という論理を打破し、集団の自浄作用を高める。			
学校関係者評価委員による意見	読書活動では、月1冊の貸出目標や新聞活用、5W1Hを意識した音読など、語彙力と伝える力を育む組織的取組が不可欠である。いじめ・不登校防止では、ネット依存や偽情報の氾濫が危惧される中、画面上ではない「人と人との関わり」を通じ、他者を受け入れる心の器を育てることが肝要だ。家庭での生活習慣の確立と、指導の難しさを踏まえた学校の丁寧な関わりを両輪とし、豊かな人間性と表現力を備えた子どもたちを地域で支えたい。				

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者	
			評価	取組状況・達成状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の全国平均値(基準50.0)を上回るを50.0以上にする。	B	●取組状況 体育スペシャリスト加配教員と連携して授業導入場面でのウォーミングアップを工夫した。また、新体力テストを年2回実施し、個人ごとの明確な目標設定を行うとともに、分析結果やトレーニング方法の掲示物を整備し、日常生活での運動習慣定着への動機付けと啓発に取り組んだ。 ■達成状況 男女ともに全国平均値を下回った。全国比はそれぞれ、男子(1年:-7.6、2年:-3.5、3年:-2.7)、女子(1年:-5.1、2年:-6.1、3年:-8.3)となった。	◎
		食育の推進	全国学力・学習状況調査の質問調査等において、「朝食を毎日食べていますか」の質問に対する肯定的回答の割合を全道・全国平均を上回る。	B	●取組状況 「朝食と学力の関連」について具体的なデータを示し、保護者へ朝食の重要性を啓発するとともに、定期テスト前には生活リズムをチェックして規則正しい生活習慣について助言した。 ■達成状況 後期生徒アンケートにおいて、学校全体で86.1%(全国比-5.1ポイント)となり、目標は達成できなかった。	◎
		健康教育の充実	全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」を90%以上にする。	A	●取組状況 ペア・グループ活動でのウォーミングアップを充実させ、誰とでも活動できる集団の育成に注力した。また、家庭でもできる運動を紹介するなど、日常的な運動への意欲向上を図った。 ■達成状況 体育科アンケート調査において、数値目標に対する肯定的回答の割合は学校全体で91.5%となり、目標を達成した。	◎
改善方策	○体力・運動能力の向上 専科指導加配を活用した中学校教員による高学年体育の授業など、小中一貫教育の視点を踏まえて、生涯にわたって運動に親しむ態度や体力の向上を目指す。 ○食育の推進 栄養教諭を活用した家庭科の授業や給食指導、保護者への啓発などに粘り強く取り組み、年間を通じた継続的な指導として定着させる。					
学校関係者評価委員会による意見	体力向上では、冬場の活動の充実やダンス講師の活用等、運動量を落とさない工夫が急務である。小中連携など高学年への指導を強め「運動と学力の相関」を意識させることで、外遊びが減っている現状への危機感を保護者と共有したい。食育では、生活の基盤となる朝食の重要性を再認識し、家庭で食べる習慣がないケースに対しては、粘り強く啓発を続ける必要がある。地域と連携し、心身ともに健やかな子どもを育てる環境づくりを推進してほしい。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	毎日の家庭学習を1時間以上行う生徒の割合を60%以上、また、全くしない生徒の割合を7%以下にする。	B	●取組状況 定期テスト前に学習計画を立てさせ、各教科では家庭学習の方法について指導したり、AIDリルを活用して学習意欲を喚起したりしながら、家庭学習の習慣化に努めた。 ■達成状況 後期生徒アンケートなどにおいて、平日の家庭学習について、学校全体で58.0%(1年生は29.8%、2年生は61.3%、3年生は75.4%)となり、目標は達成できなかった。全くしない生徒の割合は6.8%(14名)となり、目標を達成した。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	保護者アンケートにおいて「中学校で(中略)学校と地域が連携した教育活動を行っている」に対して肯定的回答を85%以上にする。	A	●取組状況 PTA活動の内容をスリム化するとともに質的に充実させながら、保護者・地域との連携を図った。また、4校で1つの学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして、地域と共にある学校づくりを推進した。 ■達成状況 後期保護者アンケートにおいて、学校全体で86.1%となり、目標を達成した。	◎
改善方策	○家庭教育支援の充実 定期テスト前には担任から効果的な時間の使い方について助言するとともに、結果ではなく継続を褒めるなど働きかけを継続し、日常化を図る。また、与えられる宿題と自主学習にバランス良く取り組むなど、生徒の興味や習熟に応じた個別最適な学習を奨励する。					
学校関係者評価委員会による意見	家庭教育支援においては、子どもたちの中には「問題の意味自体理解できない」という現状があることから、読解力や文章力の育成が急務である。基礎事項を繰り返し定着させる場として、放課後学習の充実が求められている。教育を学校のみ委ねるのではなく、保護者との緊密な連携のもと、家庭での学習習慣を見直す支援が必要である。地域と学校が一体となり、子どもたちの学びの基盤を支える環境づくりを粘り強く推進していく。					

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者
			評価	取組状況・達成状況	
5 学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	校区4校による小中連絡協議会を年5回実施する。また、小中合同研修会を開催し、教育課程や生徒指導の連携を図る。	A	●取組状況 年度当初の4校校長部会において、小中連絡協議会を1回減らして年4回にする代わりに、小中合同研修会を1回増やして年2回にするなど、教育課程や生徒指導の連携を一層充実させた。 ■達成状況 4回の小中連絡協議会と2回の小中合同研修会で計6回実施することができた。	◎
	教育環境の整備・充実	教育環境を整えるため、校内の施設設備の点検を年に3回実施する。	A	●取組状況 定期的な校内設備点検において、エアコンやストーブなどに加えて、老朽化が進む壁やドア、蛍光灯設備などの定期点検を行い、学校薬剤師とも連携しながら、必要に応じて修繕を行った。 ■達成状況 年3回以上実施し、数値目標を達成することができた。	◎
	教職員の資質・能力の向上	校内研修・校外研修に参加している教員の割合を100%にする。また、公開研究会を実施する。	A	●取組状況 定例の校内研修に加え、小樽市教育委員会の研修講座に全教職員が参加するなど、教職員の資質・能力の向上を図った。公開研究会では2年国語の授業公開を通して、研鑽を深めた。 ■達成状況 すべての教職員が各種研修に参加した。また、10月に公開研究会を実施することができた。	◎
	学校運営の改善	時間外在校等時間が1ヶ月で45時間以上の教員を10%未満とする。(R6:10%)	C	●取組状況 月に2回以上の定時退勤日を設定するとともに、小中一貫会議では教育DXロードマップ(12のデジタルに変えること)の取組をテーマに含めるなど、学校における働き方改革を推進した。 ■達成状況 45時間以上の教員は26.3%(19名中5名)となり、目標は達成できなかった。	◎
	学校安全教育の充実	避難訓練及び防災教室を1回以上実施する。校区安全マップの改訂と小学校と連携した災害時のマニュアルを見直ししながら更新する。	A	●取組状況 5月に火災を想定した避難訓練を実施した。夏季休業前には、小樽警察署から講師を呼んで、防災防犯や薬物乱用防止の視点を踏まえた講演会、12月にはヒグマ安全講習会を実施した。また、校区内の3つの小学校と連携して安全マップや危機管理マニュアルの見直しを行った。 ■達成状況 数値目標を達成することができた。	◎
改善方針	○学校運営の改善 北海道アクション・プランに基づき、働き方改革を推進する。学校行事の精選とスリム化や会議の時短と精選、ICTの活用による校務の効率化を図る。				
学校関係者評価委員による意見	学校運営の改善については、教職員の働き方改革を推進するため、前例踏襲ではなく、業務の要不要を精査して効率的な執行を組織的に図る必要がある。学校安全では、ヒグマ・シカ等の鳥獣被害への危機管理が急務である。ヒグマ安全講習の実施は大変良かった。海岸に近い立地を踏まえた防災の取組や広大な地域を考慮した実効性のある安全マップがあればさらによい。地域の特性に応じた安全確保と、持続可能な学校運営体制の構築を同時に進めてほしい。				
社会教育に関連する目標(目標6～8)		年に2回、長期休業中の学習会で、学習支援ボランティア等を活用する。また、総合的な学習の時間では、博物館などの社会教育施設と連携する。	A	●取組状況 各長期休業中の学習会では、地域の学習ボランティアや樽っ子サポートによる高校生などを活用して充実を図った。また、1年生の旅行的行事において、博物館や美術館など社会教育施設への訪問学習を行った。 ■達成状況 数値目標をともに達成することができた。	◎
改善方針	○長期休業中の学習会では、継続して地域人材の学習支援ボランティアに協力依頼するとともに、樽っ子サポート事業を活用して一層の充実を図る。社会教育施設との連携については、小中一貫した総合的な学習の時間の計画を立てるなど、9年間の見通しを持ちながら、教育課程に効果的に組み込む。				
学校関係者評価委員による意見	社会教育目標の達成に向け、長期休業中の学習支援ボランティア活用や博物館連携を基軸としつつ、地域防災に関わる実地教育の強化も推進してはどうか。例えば、町内会の防災訓練への参画(国土地理院の地図を活用)や、自主防災組織との連携などもある。社会教育施設や組織を能動的に活用する視点が重要である。実社会の知見を学びに取り入れ、地域コミュニティの一員として自ら考え行動できる資質を育ててほしい。				